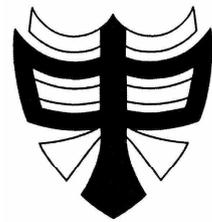


真の美しさで、すべての人に
幸せを届ける鳳雛の育成



令和7年度

大館市立東中学校

後期学校評価(まとめ)



合唱コンクール全校合唱「時の旅人」



東中ボランティア



きりたんぽ祭り



東中太鼓伝承式

学校経営のキーワード＝生徒会テーマ
Bright Future ～ 今、始めよう ～

I 運営・展開

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
「地域の中で愛される学校」へ、共に歩みを進める「チーム東」が機能している。自分と地域の未来を切り拓くための大館市民実践力が発揮されている。	前期	きわめて良好	きわめて良好	大変よい状態だと思われる。後期も引き続き頑張ってもらいたい。
	後期	きわめて良好	きわめて良好	数値が前期よりも上がってきている。来年度さらに高めてほしい。情報発信もtetoru導入により、前期よりもよくなってきた。さらに有効活用してほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

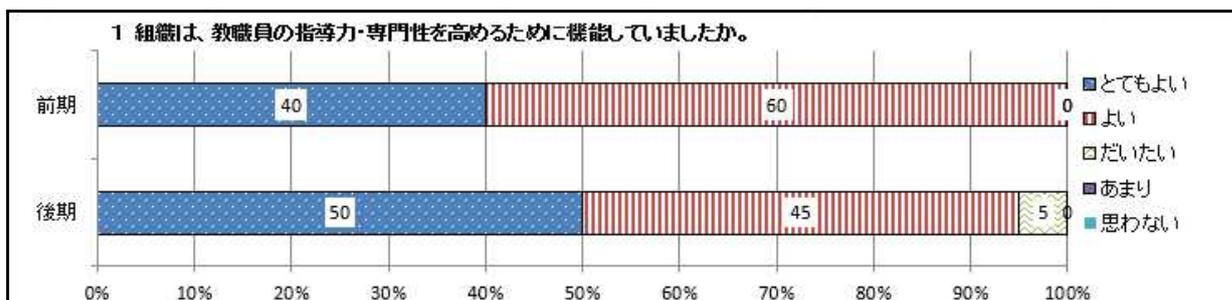
【前期】
 評価指標1に関するアンケート項目において、アンケート1は100%、アンケート2は95%以上の肯定的評価が得られている。アンケート1の結果から、組織が教職員の指導力・専門性を高め、その資質能力を高めた教職員により、更に組織が強化されていると伺える。前期の評価が自己満足に終わらず、学校教育目標や、目指す生徒像の具現化を目指し、チームとして更に向上していきたい。また、評価指標2においては、教師アンケートでは95%が肯定的であり、保護者アンケートは学年のばらつきはあるものの、良好と判断できる。後期も生徒のよさや頑張りや保護者や地域に発信し、つながりの強化を図りたい。
 評価指標3において、「真の美しさ」を支え輝かせるため、安心・安全な教育環境の整備と効果的・実効的な予算執行による教育活動支援が行われている。また、天晴れ横断幕やタオルマフラーをはじめ、地域に元気を届ける鳳雛（生徒）の活動を支援することができている。施設設備の老朽化は著しいが、引き続き教育環境の整備と各種教育活動の支援に努めてまいりたい。

【年度（→次年度）】
 評価指標1に関するアンケート項目において、アンケート1、2ともに95%の肯定的評価が得られている。また、どちらも「とてもよい」の数値が前期よりも上がっている。全職員が学校教育目標を意識し、行事や日々の教育活動で実践したことで経営参画意識が高まり、職員の同僚性が高まったと思われる。今後は更に組織力を高めるために、一人一人の「自分事」の意識を高めていきたい。
 評価指標2においては、教師アンケートでは95%、保護者アンケートは84%が肯定的評価が得られている。こちらも「とてもよい」の数値が前期より上がっている。生徒のよさや頑張りや保護者や地域に発信し、つながりの強化を図りたい。危機管理対策（熱中症・害獣・自然災害・感染症）に関するこまめなメール配信や、tetoru導入によるデータ配信などにより、保護者の関心も高まったと思われる。今後も継続していきたい。
 評価指標3において、「真の美しさ」を支え輝かせるため、引き続き安心・安全な教育環境の整備と効果的・実効的な予算執行による教育活動支援が行われている。東中祭では予算配分を行うことで各部門の主体性が発揮された。また、「天晴れダンス」及び「東中太鼓」ののぼり旗は東中祭やきりたんぼまつりにて、保護者や地域の方々にお披露目し、生徒の活動とともに地域に元気を届けるツールとなった。次年度は、今年度立ち上げたマフラータオルやのぼり旗をはじめ、継続性、連動性をもって、引き続き「真の美しさ」を支え輝かせるため、鳳雛（生徒）の活動を最大限支援してまいりたい。

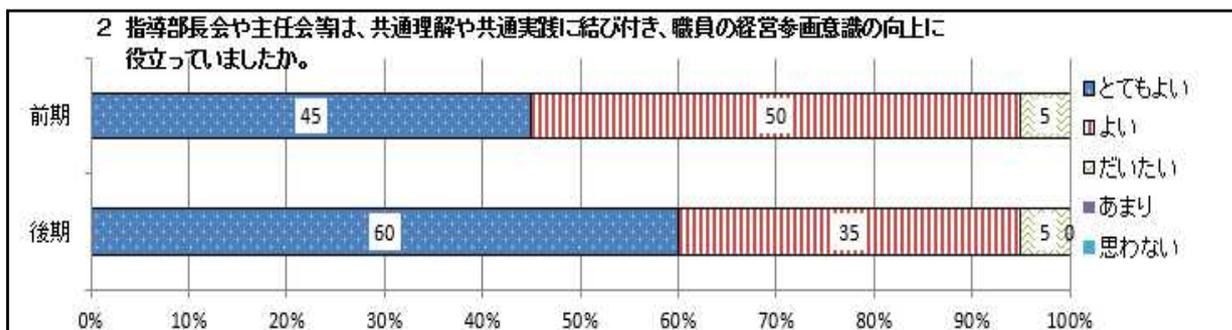
評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価B	
			前期	後期
1 組織の活性化	(1) 同僚性と学び合う風土を兼ね備えた組織	教職員の指導力・専門性を高めるための人材育成を兼ね備えた組織づくり	5	5
	(2) 経営参画意識の強化	指導部長会、主任会、ミニ研修会による共通理解・共通実践の強化		
2 地域の教育力	(3) 情報発信と地域連携の推進	メール配信や学校報での情報発信と地域活動推進による地域とのつながりの強化	4	5
3 適切な予算運用	(4) 予算配分と計画的な執行	目標実現に向けた教育活動展開のための予算配分の工夫と計画的な執行	5	5

【評価指標 1】組織の活性化

教師ア

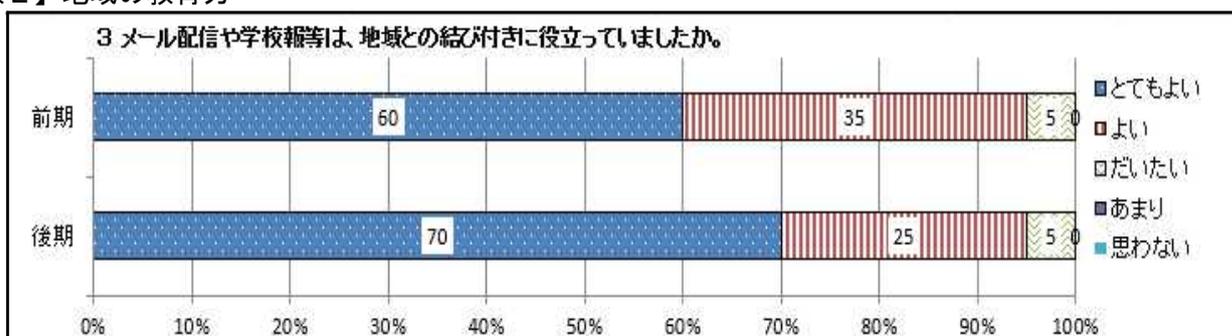


教師ア

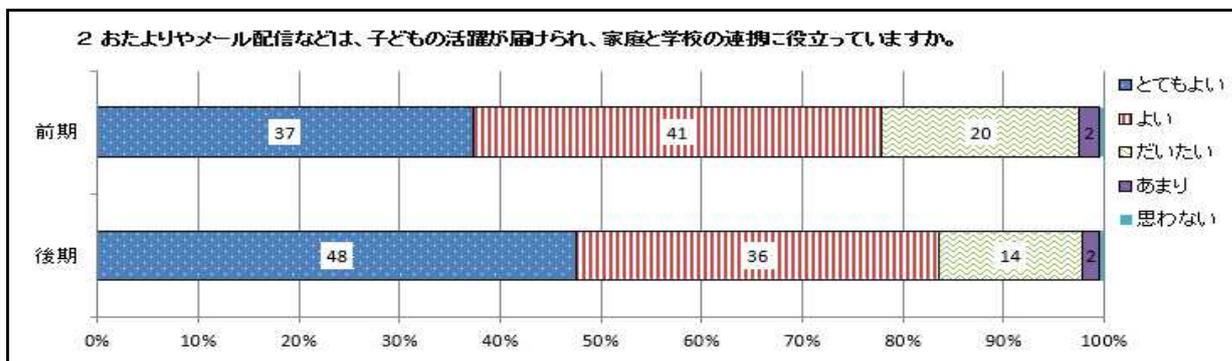


【評価指標 2】地域の教育力

教師ア

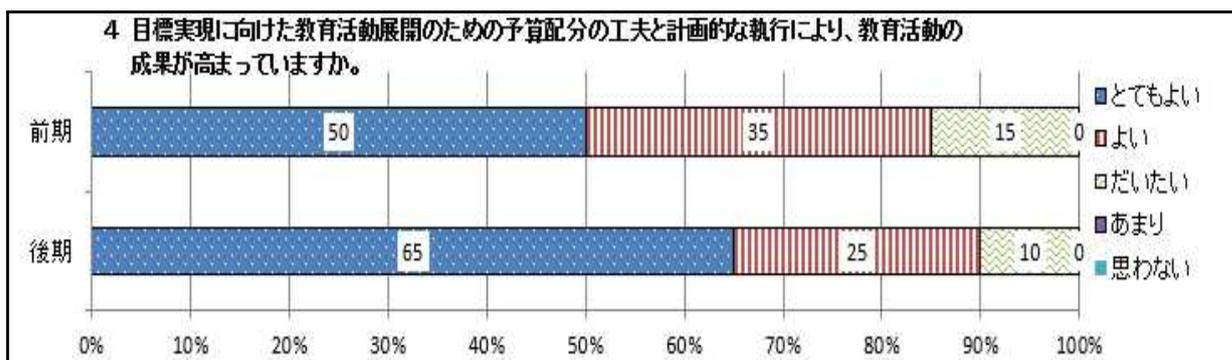


保護者ア



【評価指標 3】適切な予算運用

教師ア



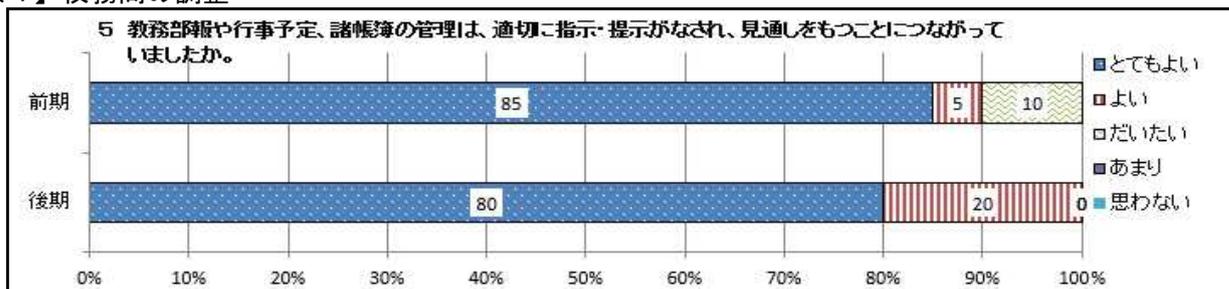
Ⅱ 企画・調整

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
美しさを磨く校務部の調整が図られている。 授業改善に向けた課題がクローズアップされている。	前期	良好	良好	学校での取組を、PTAでも話してほしい。学校と保護者で共有することで、さらに子どもの成長が図られると思う。
	後期	良好	良好	教科の枠を超えた研修の取り組みがとてもよい。TTも効果的に活用されている。「見方・考え方」の教師の数値は下がっているのは、先生方が自分に厳しく評価したと思われる。来年度に期待したい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期】 評価指標4に関するアンケート項目全てにおいて、80%以上の肯定的評価が得られている。特に教師アンケート項目6では100%が肯定的評価となっており、本校職員全員が、各校務部の連携が図られていたと実感できる学校状況であったことがうかがえる。また、3年生の保護者評価においても90%以上が肯定的評価となっており、「学校の顔」である3年生の姿からも、学校のよい状況が各家庭に伝わっていることがうかがえる。これらは、教師が見通しをもち、生徒主体になるように常に仕掛け続けた結果であると考えられる。以上のことから「美しさを磨く校務部の調整が図られている」の状況は良好と判断した。 後期は、学校行事や校内研修（研究授業）等の場がたくさんあり、校務部の調整がより一層重要になってくる。後期は3年生だけでなく、1・2年生の姿からも学校のよい状況が示せるよう、「美しさ」を追求した分掌運営に当たりたい。 評価指標5に関するアンケート項目について、今年度、「東中学び方の約束」を生徒と共に創ることを試みた。今後も機をとらえて生徒に意識させ、働きかけることが必要である（生徒アンケート1）。授業構想力の向上と魅力ある導入の工夫については、研究の大きな柱の1つであるため、意識を高くもって取り組むことができている。引き続き、指定訪問研究会等を全職員の研修の場と捉えて、共通実事項を中心にした実践を積み重ねていきたい（教師アンケート7）。東中スタンダードの徹底については、周知徹底を図ることができていないため、肯定的な評価が低い。共通実践事項の1つである「キャリア発達につなげる振り返りの充実」について、今後共通理解を図っていきたい（教師アンケート8）。			
	【年度（→次年度）】 前期に引き続き、評価指標4に関するアンケート項目全てにおいて、80%以上の肯定的評価が得られている。特に教師アンケート項目5と6では100%が肯定的評価となっており、充実の2学期であったことがうかがえる。また、保護者評価においても肯定的評価の割合が前期より向上し、生徒の姿からも、学校のよいエネルギーが各家庭に伝わっていることが感じられる。これらは、前期の結果を踏まえた上で、教師が見通しをもち、生徒主体になるよう、常に求め続けた結果であると考えられる。 一方、保護者評価において、否定的評価もあがっている。三者（生徒・教師・保護者）が満足できる状況になるよう、保護者に学校側の意図を伝えながら、生徒を巻き込んだ学校行事の企画運営により一層取り組んでいきたい。 評価指標5に関するアンケート項目について、2学期中旬に行った校内研修会で「東中スタンダード」に基づいた研修の場を設けたことにより、教師の意識が向上し、肯定的な評価が増えたものと推察される。（教師アンケート8） 一方で、授業構想力の向上と魅力ある導入の工夫に関しては、肯定的な評価が減少している。指定訪問研究会等において、他教科の授業から得たヒントを自身の授業改善に反映させていく必要がある。（教師アンケート7） 生徒と共に創った「東中学び方の約束」については、次年度以降見直しを重ねながら、生徒自身が学び方の約束を自分事として捉え、実践していこうとする気持ちをもたせたい。（生徒アンケート1）			

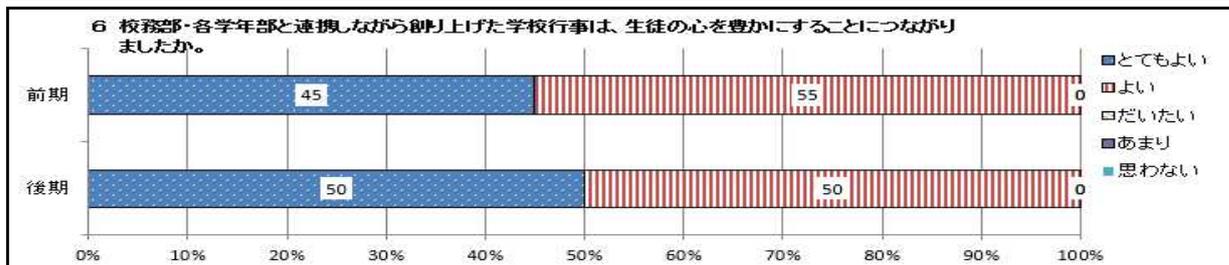
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
4 校務間の調整	(5) 活動を保障する見通しある提案学校帳簿管理	先を見通した早めの全体計画・予定の提示、学校諸帳簿の正確な作成と適切な管理	4	5
	(6) 生徒を巻き込んだ学校行事の企画	校務部や学年部と連携し、心を育てる行事の企画		
5 課題のクローズアップ	(7) 授業構想力の向上	各教科の「見方・考え方」を明確にした授業構想と実践、魅力ある導入の工夫	4	4
	(8) 主体的な学びを促す授業づくり	東中スタンダードの徹底、鳳凰タイムの展開		

【評価指標 4】校務間の調整

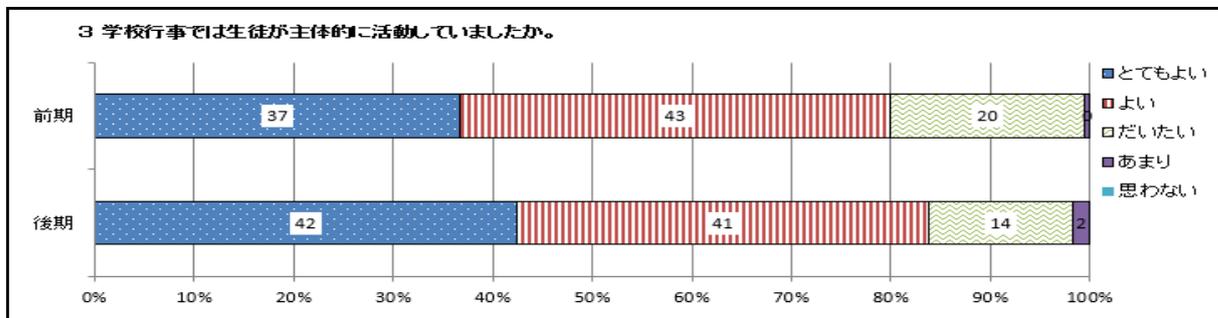
教師ア



教師ア

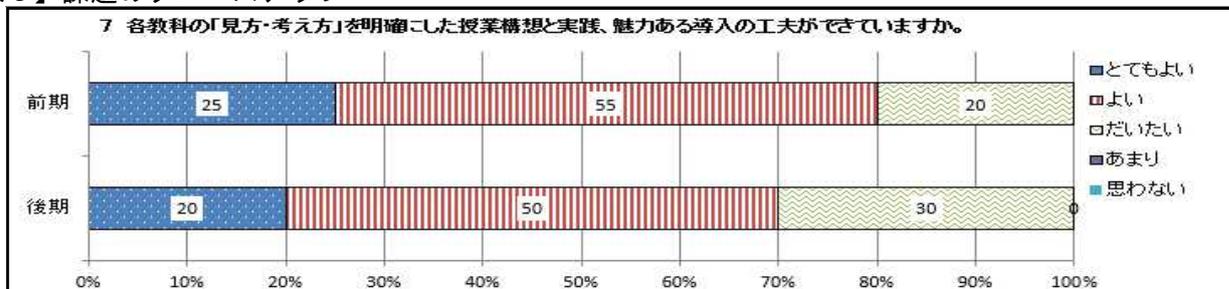


保護者ア

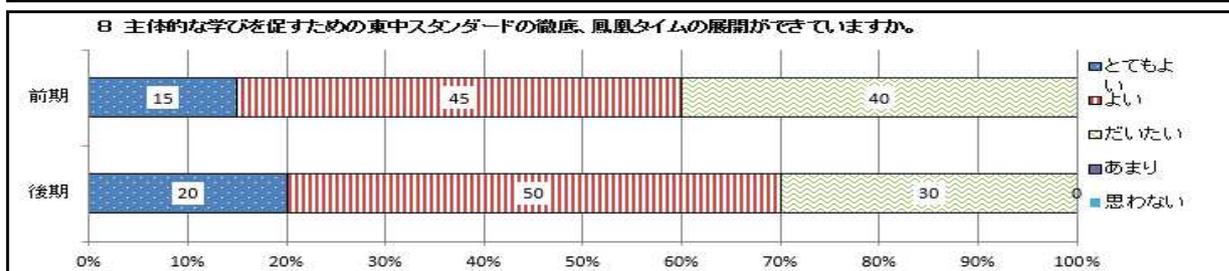


【評価指標 5】課題のクローズアップ

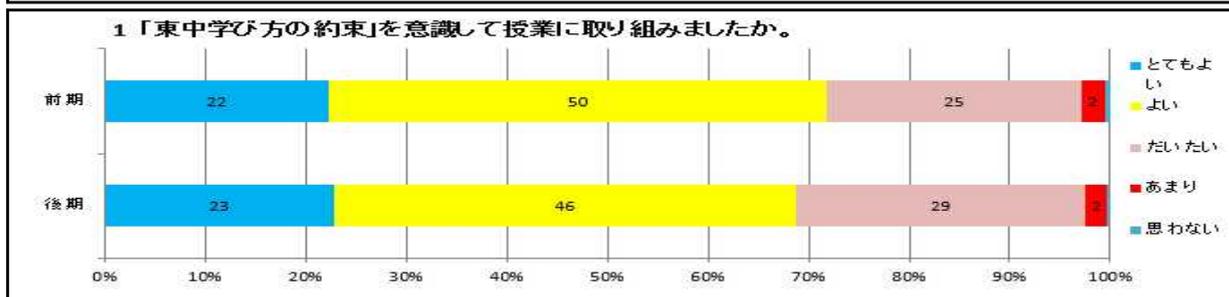
教師ア



教師ア



生徒ア



Ⅲ 主体的学習態度・基本的学習習慣

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学びの体力と授業規律を身に付けるための指導に努めている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	東中の現状を目に見えるかたちで知りたいので、後期は全国学力テストや県の学習状況などの、結果を教えてほしい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	先生方が真摯に指導してくださっている。大変ありがたいことだ。いろんな生徒はいるが、しっかりと対応できている。また、ローテーション道德の取り組みがとてもよい。

自己評価の概要と学校の改善策

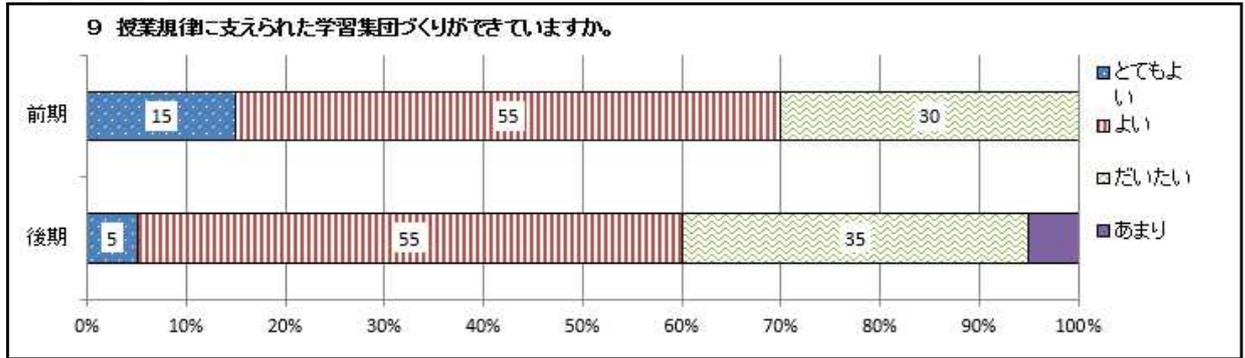
【前期】
 授業規律に関するアンケート結果は、肯定的な回答（「とてもよい」と「よい」）が教師70%、生徒72%、保護者60%となっている。教師と生徒の数値が7割を超え、生徒の数値が最も高い要因のひとつに、4月当初に全校で学習集会を開き、生徒たち自身が話し合いをして「学び方の約束」を作成したことにあると考える。生徒が学習規律を「自分ごと」としてとらえたことが功を奏していると考え。道德の授業については、教師の肯定的な回答が70%、生徒の回答は82%となった。生徒の高い実践的意欲に応えられるような授業改善を、1学期同様に全職員で行っていききたい。
 教育資源の有効活用については、ICT機器、図書室と学級文庫の利用共に、教師も生徒も肯定的な回答が25～30%程度にとどまっている。ICT機器に関しては、研究部と連携して授業での機器の効果的な活用を進めたい。学校図書に関しては、図書委員会を活用して、図書室の積極的利用の推奨を生徒の声で進めたい。

【年度（→次年度）】
 授業規律に関するアンケート結果は、肯定的な回答が教師60%、生徒69%、保護者61%となっている。前期と比べて、教師回答の数値が10%低下していることの原因として、「始業前の学習への取り組み」と「授業中の態度」の2点において、改善の余地があることが挙げられている。「始業前の学習への取り組み」については、それぞれの授業を担当する教員の評価を、学習委員がより積極的にフィードバックする方法を委員会の生徒と一緒に考え、実践したい。また、教員が3分前には教室にいて学習に向かう雰囲気をつくることも徹底したい。「授業中の態度」については、授業という場においてふさわしい意見の伝え方や聞き方を、もう一度生徒と確認し、見届けることを徹底したい。4月当初に全校で学習集会を開き、生徒たち自身が話し合いをして「学び方の約束」を作成したことに立ち戻り、生徒自身が「どのような授業をつくりたいのか」ということを再確認する機会を設けたい。いずれにしても、分かりやすい授業づくり（生徒が考えたいような課題設定やねらいを達成するための意図的な学習形態づくり等）をすることが、授業規律に支えられた学習集団をつくるための一丁目一番地と考える。
 道德については、教師の肯定的回答の割合が格段に上がった。東北道德研究会のために全校体制で研究を進めたことや、学級担任以外の教員が授業を担当する「ローテーション道德」の実施が、共同的な教材研究を進めることにつながった。
 教育資源の有効活用については、後期もICT機器、図書室と学級文庫の利用共に、教師も生徒も肯定的な回答が15～25%程度にとどまっている。新しいタブレットが貸与されたことをきっかけとして、各教科でより積極的に活用し、実践の蓄積と共有を図りたい。図書館利用の促進に関しては、各学級が交代で、朝活動の時間を図書館で読書して過ごす「朝読書in図書館」のような企画を実施したいと考えている。図書委員会を活用して、生徒の必要感を醸成したい。

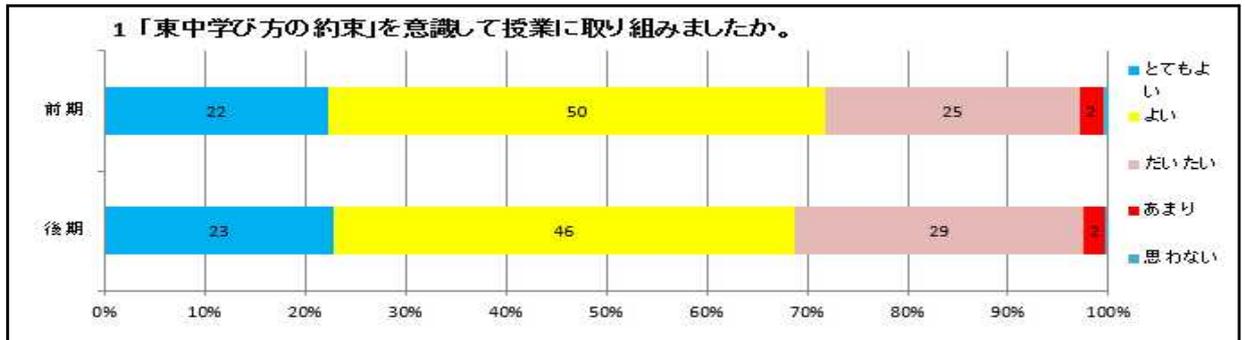
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 学びの体力	(9) 主体的学習態度の育成	・学習規律に支えられた学習集団づくり ・「学び方の約束」の実践の徹底	4	4
	(10) 道德教育の充実	・指導方法、発問の工夫 ・考え、議論する道德を目指した授業づくり		
7 教育資源の有効活用	(11) ICTの活用	・ICT機器の保守管理と効果的な活用	3	3
	(12) 図書館利用の促進	・図書館と学級文庫の効果的な利用		

【評価指標6】学びの体力

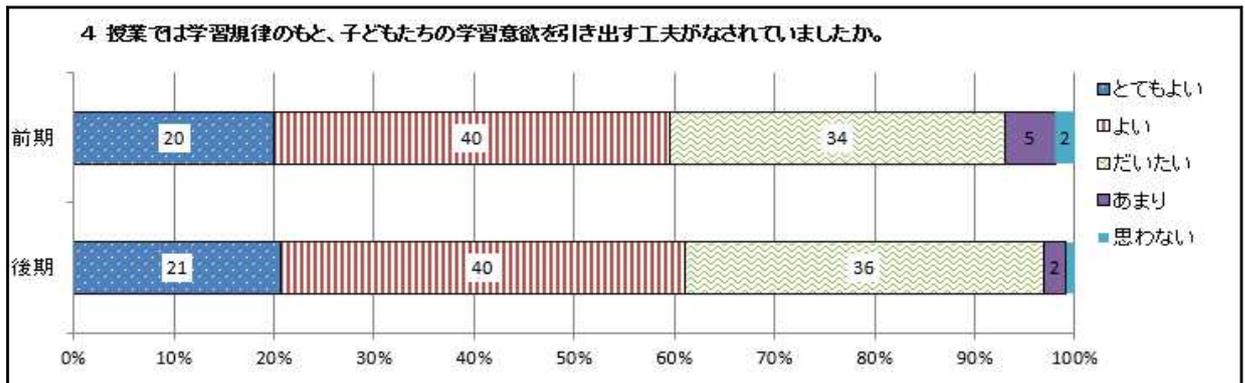
教師ア



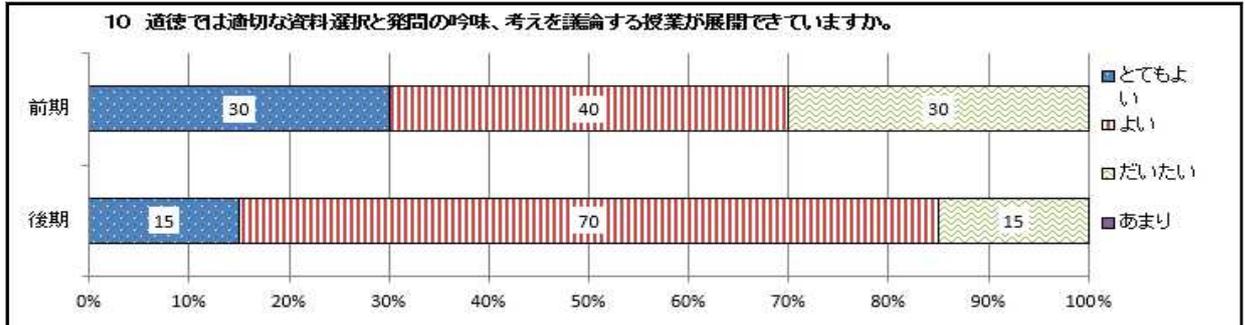
生徒ア



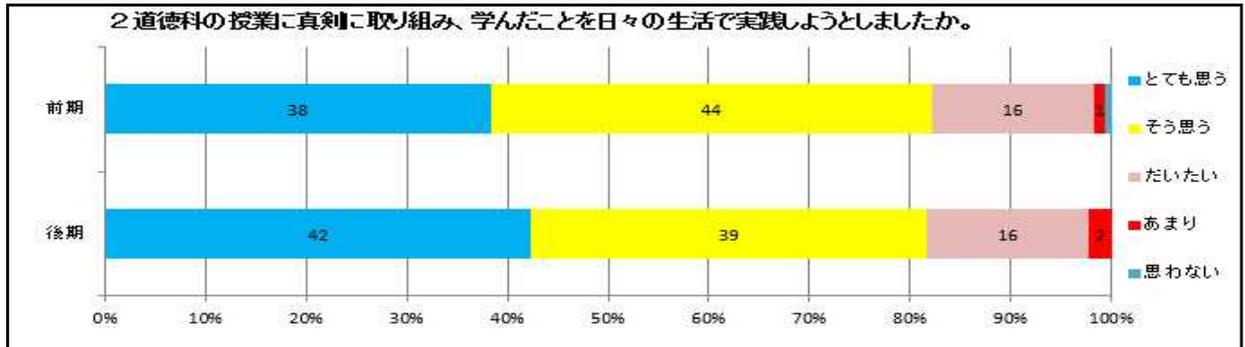
保護者ア



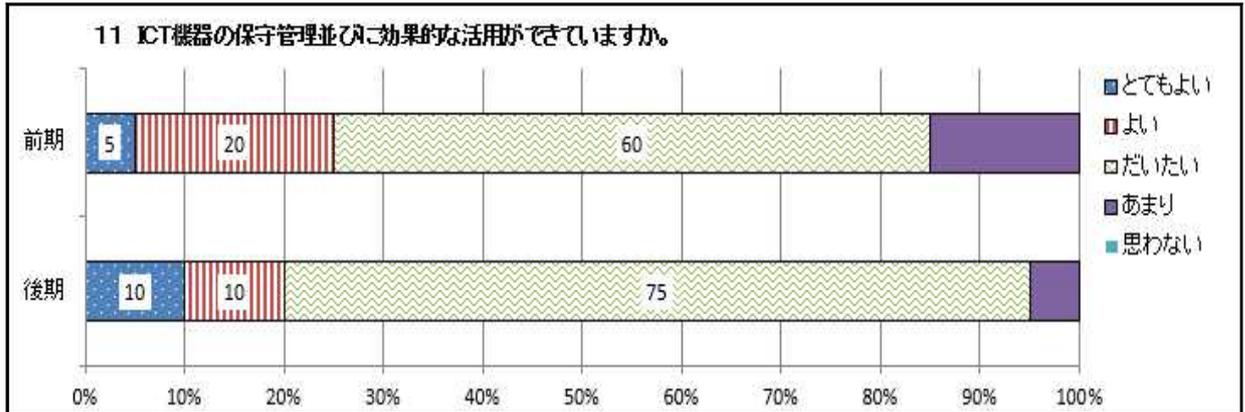
教師ア



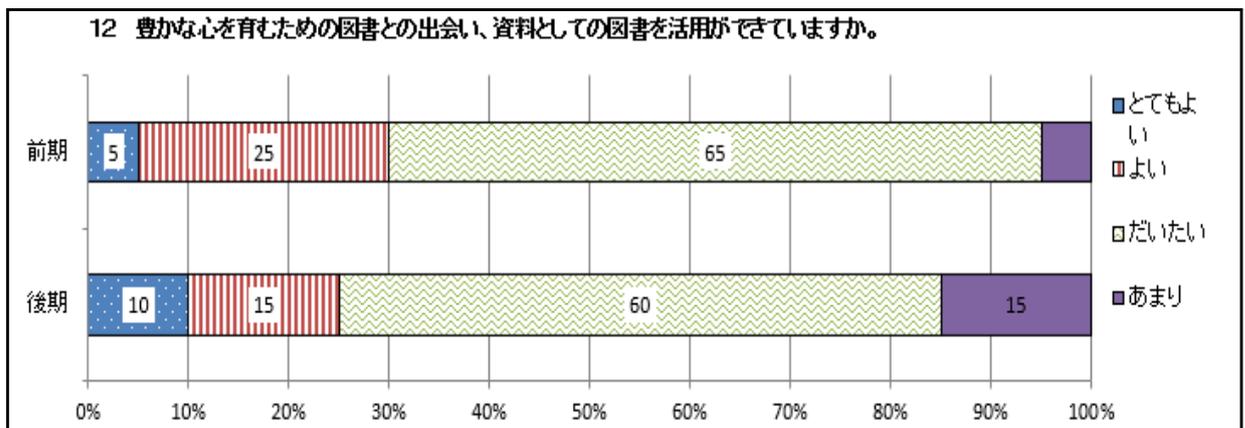
生徒ア



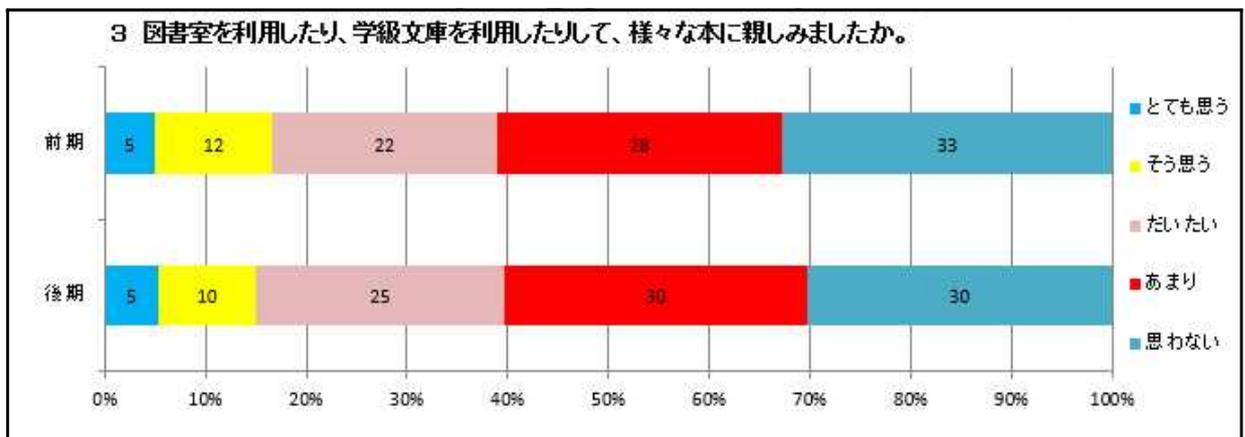
【評価指標 7】教育資源の有効活用
教師ア



教師ア



生徒ア



Ⅳ 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
自己肯定感を高めるための指導に努めている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	元気なあいさつがとてもよい。生徒同士の関係も良好である。不登校生徒へもカウンセリングなどの対応もしっかりしている。後期はさらによくなることを期待している。
	後期	良好	良好	フェーズに応じた対応が明確化されているなど、危機管理がしっかりなされている。学校に安心して子どもを送り出すことができる。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期】※以下に示す「肯定的な回答」とは、とても思う・そう思うの割合の合計である。

評価指標8の「基本的な生活習慣の確立」に関するアンケート項目において、肯定的な意見が7割を超える結果となった。これは生徒指導共通実践マニュアルに基づいた指導と規範意識の確立、危機回避能力育成と事故防止対策、ライフスタイルの見直しと改善に関する取り組みの成果が出始め、自己指導力が向上してきた兆しと考えられる。しかし、規則正しい生活（睡眠・食事・メディアコントロール等）を送ることについては課題が残る。ただ、アンケート結果をみると生徒も課題意識をもっていることが散見されたため、より多くの生徒が自分事として取り組める手立てを他の校務部や生徒会、委員会と連携していきたい。

評価指標9の「部活動」に関する項目では、肯定的な回答が8割を超える教師の回答結果に対し、保護者は肯定的な回答が6割であった。また、保護者は否定的な回答が1割弱という結果になった。学校としての指導方針や活動運営方針を今一度確認し改善を図るとともに、熱中症予防や事故防止などの危機管理面の指導と対策を強化することで安心安全な部活動経営につなげたい。

評価指標10の「教育相談の充実」に関する項目において、生徒は解決につながったという肯定的な回答が7割を超えていた。一方で、教師及び保護者は、研修や体制づくりに対する肯定的な回答が5～6割程度にとどまった。教育相談のための研修や体制づくりや、アンケートの活用方法の周知が不十分であることが考えられる。今後、改善を図っていきたい。

【年度（→次年度）】

評価指標8に関するアンケート項目では、概ね肯定的な回答を得られた。基本的な生活習慣の確立を目指し、これまでの生徒指導共通実践マニュアルに基づいた指導と規範意識の確立、危機回避能力育成と事故防止対策、ライフスタイルの見直しと改善に関する取り組みの成果が、自己指導力の向上につながったと考える。特に、危機回避能力育成と事故防止対策については、熱中症やクマ、地震等の身近な危険を生徒も自覚し、そこに対して課題未然防止教育を充実させることができた成果であると考えられる。

評価指標9に関するアンケート項目では、教師では90%、保護者では77%の肯定的な回答が得られた。地域展開の進展はないが、健全で適切な部活動を目指し、たくましさ、しなやかさの向上を目指した部活動指導及び経営ができていると考える。特に感染症やクマ対策を早期に講じて生徒の安全を守ったり、定期的なキャプテン会議の開催により、部員が長期・中期・短期的な目標を、部員同士で共有したうえで部活動が経営できた成果と考える。

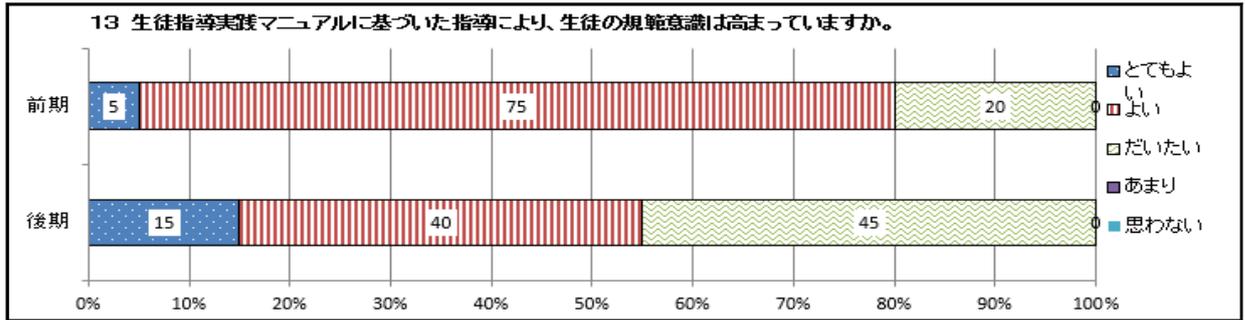
評価指標10に関するアンケート項目では、肯定的な回答がすべての項目で70%を上回った。教育相談の充実を目指し、多面的な生徒理解と組織的且つ効果的な教育相談の研修と体制づくりが、日常的・積極的な教育相談と生徒理解への実践へとつながったと考える。特にアンケートが調査きっかけとなり、生徒の困り感の早期発見につながったこと、そしてその諸課題にチームで対応し、保護者との情報共有も含めて一人一人に寄り添う生徒指導ができた成果であると考えられる。

次年度も今年度の取り組みを継続するとともに、生徒を主体とする規範意識の醸成を目指して仕掛けたい。

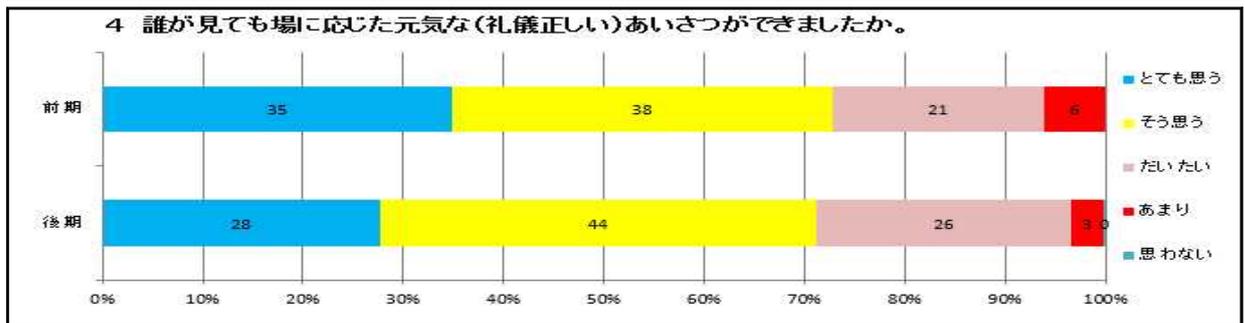
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
8 基本的な生活習慣の確立	(12) 自己指導力の向上	生徒指導共通実践マニュアルに基づいた指導と規範意識の確立	3	3
		危機回避能力育成と事故防止対策、ライフスタイルの見直しと改善		
9 健全で適切な部活動	(13) たくましさ、しなやかさの向上	地域展開を見据えた部活動指導の在り方	3	4
10 教育相談の充実	(14) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解	多面的な生徒理解と組織的且つ効果的な教育相談の研修と体制づくり	3	4

【評価指標 8】 基本的生活習慣の確立

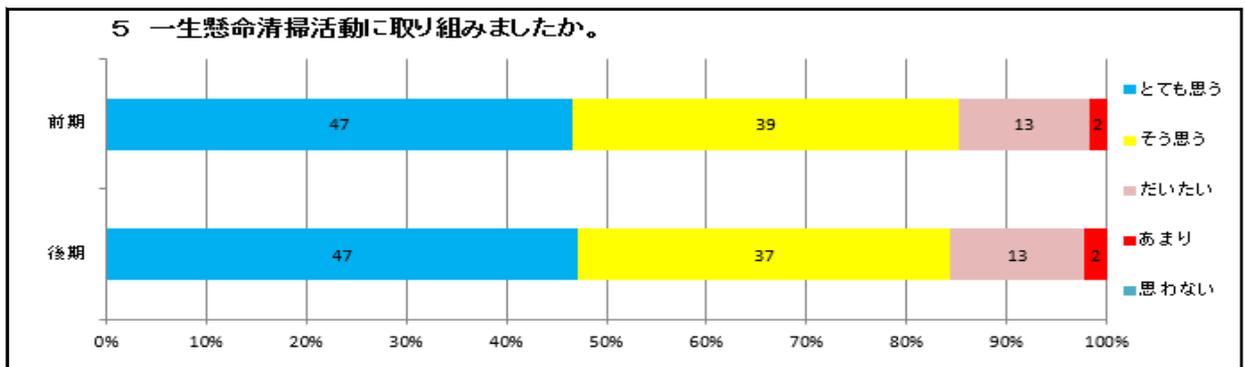
教師ア



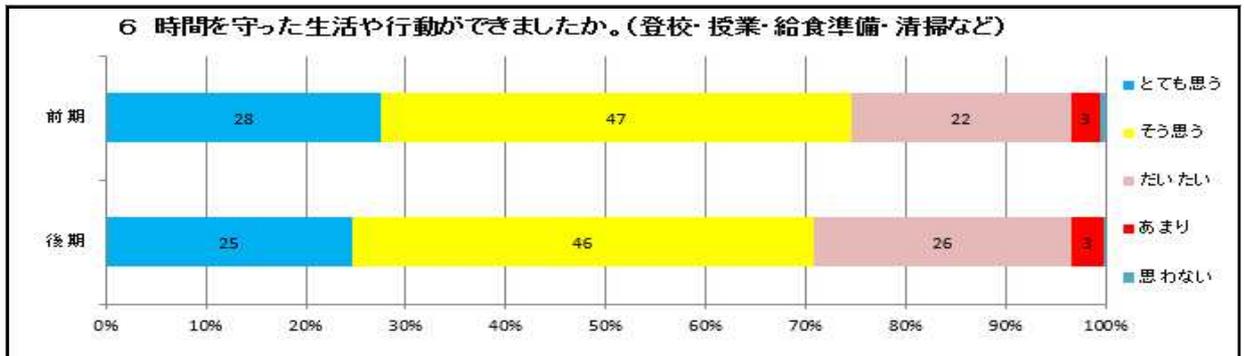
生徒ア



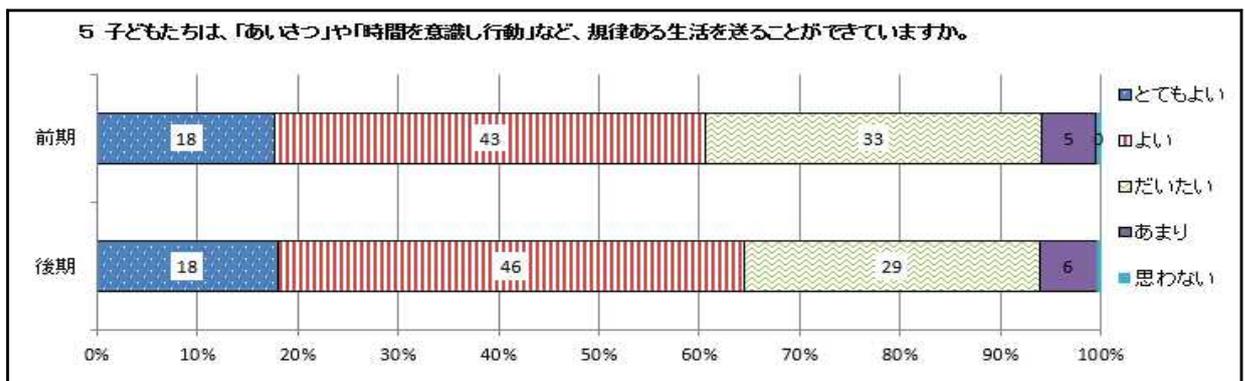
生徒ア



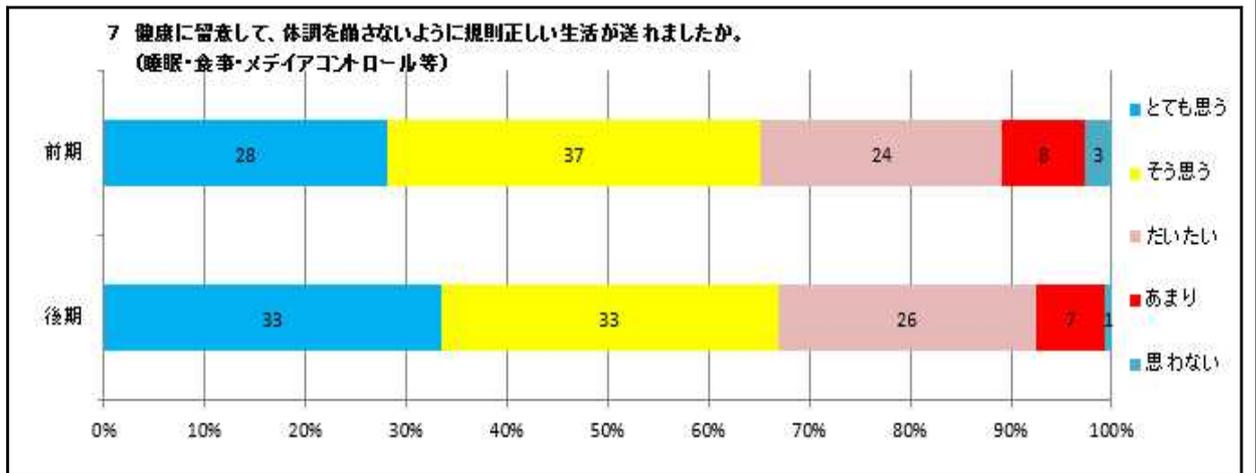
生徒ア



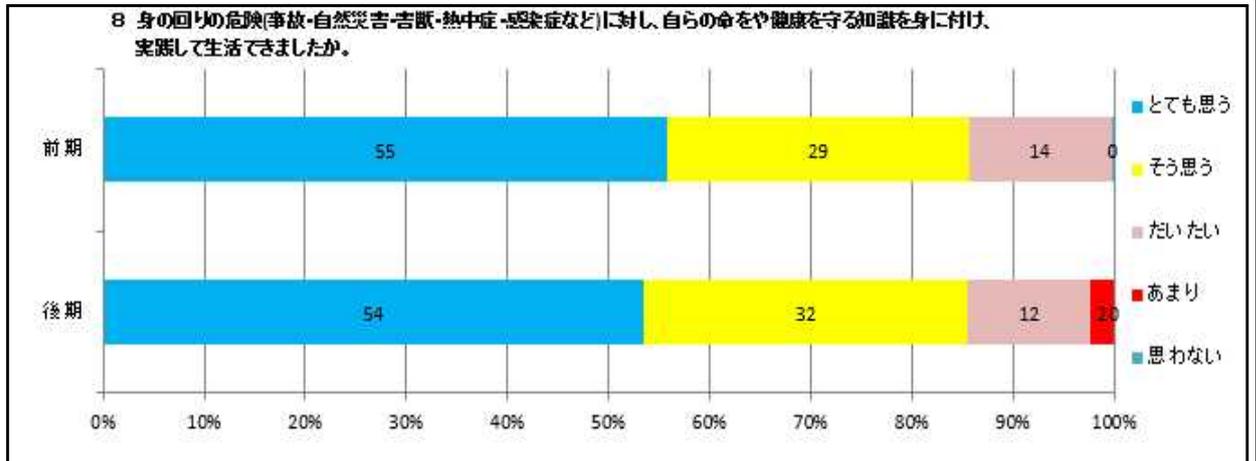
保護者ア



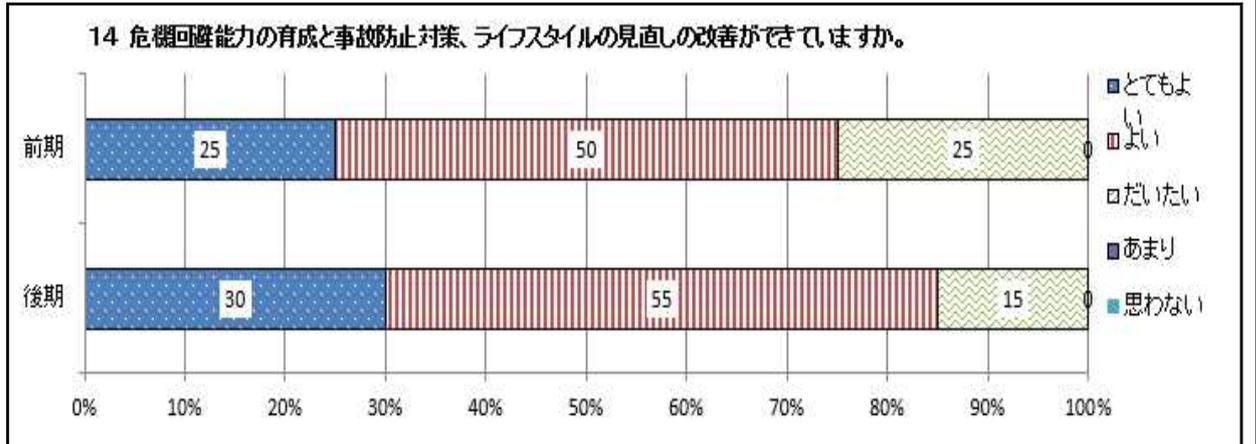
生徒ア



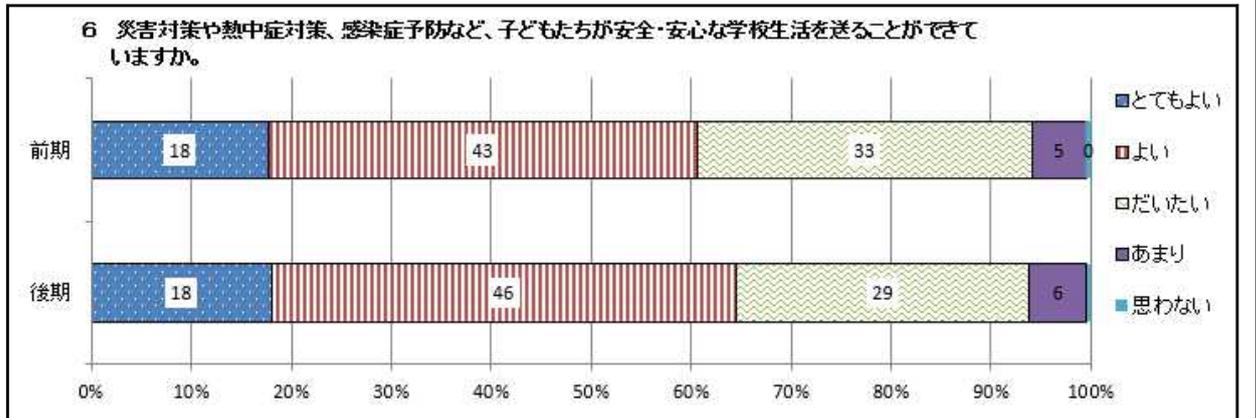
生徒ア



教師ア

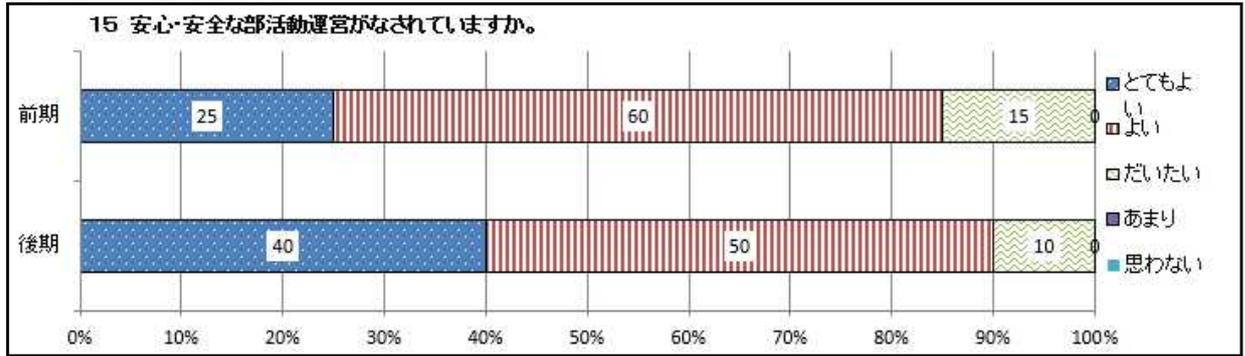


保護者ア

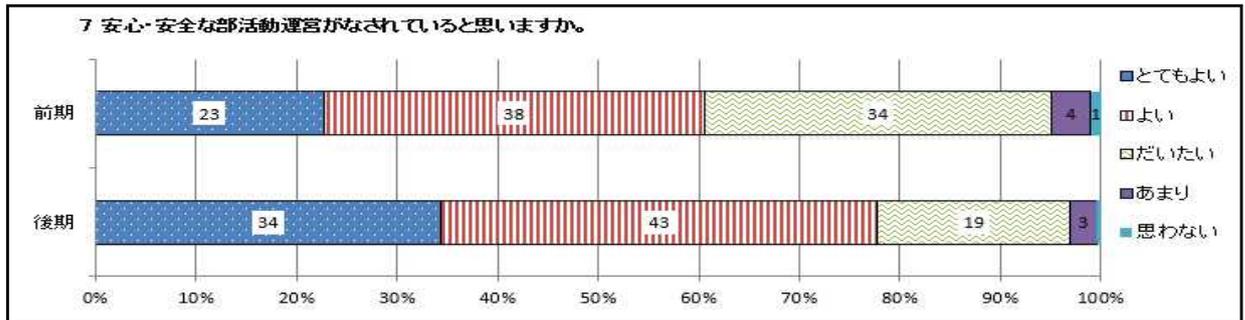


【評価指標 9】健全で適切な部活動

教師ア

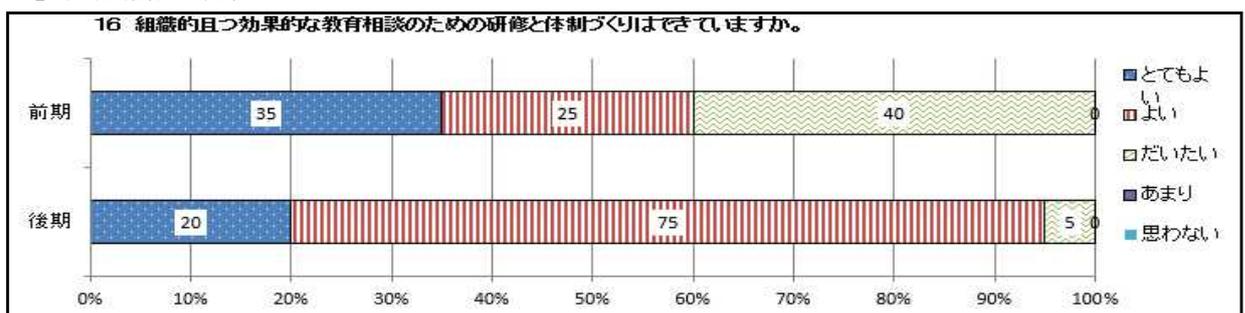


保護者ア

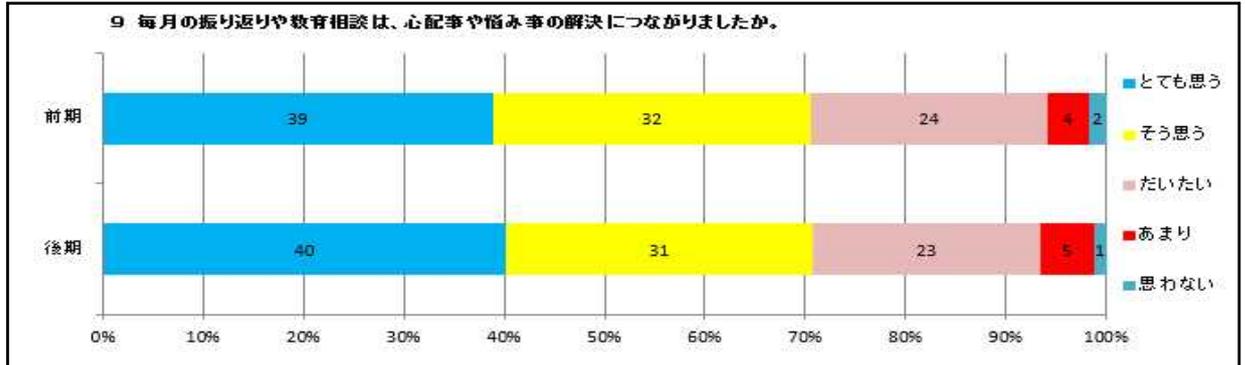


【評価指標10】教育相談の充実

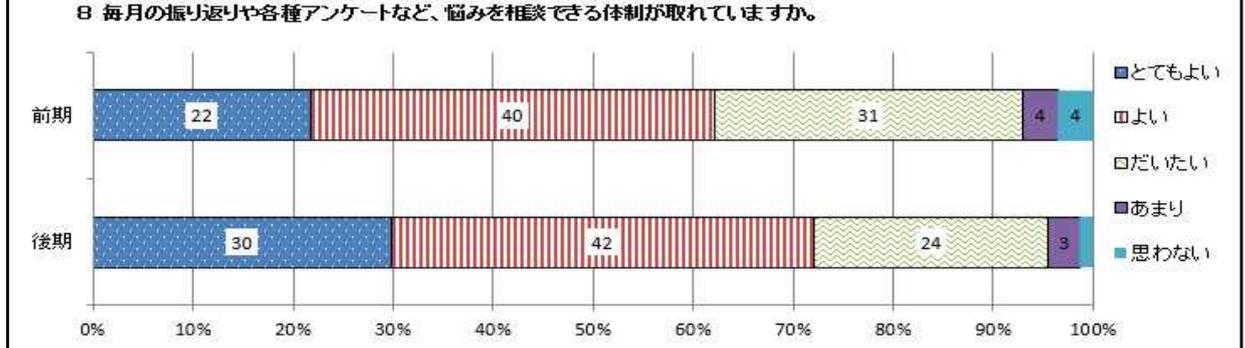
教師ア



生徒ア



保護者ア



V 思いやりの心、たくましい心

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
居心地よい集団づくりのための指導に努めている。	前期	良好	良好	生徒会活動でのボランティアの意識が高い。生徒自身が何をやりたいかを考え、実行できている。素晴らしい心が育っている。親の評価が低いのは時期も関係があるのか？後期に期待している。
	後期	良好	良好	居心地のよい集団づくりは次の子ども(新入生)のことも考えている。また、生徒会活動やボランティア活動は自らアイデアを出すなど、生徒の主体性を育てている。そして、行事を通して考えることの大切さを学んでいる。

自己評価の学校の改善策

【前期】※以下に示す「肯定的な回答」とは、とても思う・そう思うの割合の合計のことである。
 評価指標11に関して、生徒の肯定的な回答は92%と非常に高かった。友人と協力して様々な活動に意欲的に取り組んでいることが分かった。学級や学年、学校のそれぞれの社会集団の中で、居心地のよさを感じ、自分の役割を自覚して伸び伸びと活動できていると言える。
 評価指標12に関して、生徒の肯定的な回答は86%であるのに対し、教師の肯定的な回答は55%と生徒と教師の間に大きな差が見られた。進路指導は、高校入試と直接的に結び付けて考えてしまいがちだが、その指導は多岐にわたる。普段の学校生活で、自分や社会のこれからの目を向けさせる機会を大切にしたい。
 評価指標13に関して、生徒・保護者・教師の肯定的な回答は60~70%程度に留まった。東中三大自慢を胸を張って誇れるのかどうかという思いが、この数値に大きく影響を及ぼすと考えられる。誰かから与えられた「自慢」ではなく、自分たちで考え、取り組み、再確認し、高めていくことで矜持をもたせたい。

【年度(→次年度)】

評価指標11に関して、生徒の肯定的な回答はほぼ変わらなかったが、教師の肯定的な回答が90%であり、前期に比べ5%上昇した。生徒が生き生きと活動する様子から、教師が生徒の活動への充実感を感じられたことが要因だと考えられる。特別活動は、諸活動を通して生徒が主体的に考えて行動し、実践する中で様々な力を育成するねらいがある。教師から与えられた活動ではなく、生徒自身が「自分たちで創り上げた」活動だと実感できることが大切である。そのための準備、土台づくりを教師が意図をもって、綿密に行う必要がある。

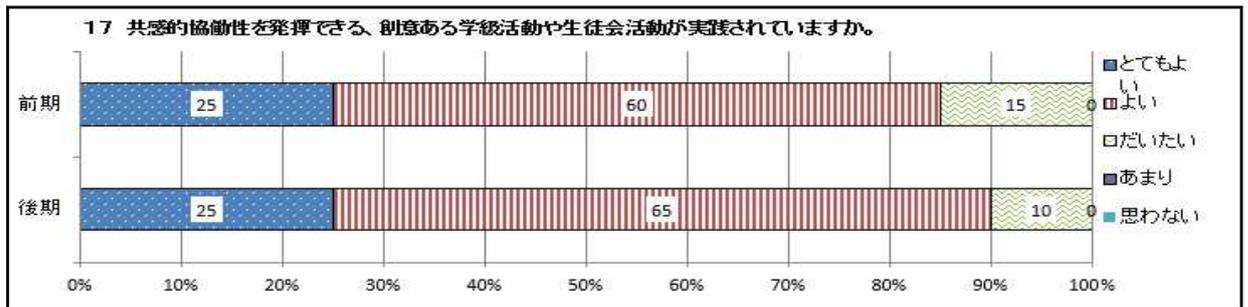
評価指標12に関して、教師の肯定的な回答が80%となり、前期に比べ25%上昇した。後期は、3年生の高校入試説明会や、1・2年生の高校説明会などがあり、自らの将来と結び付けて考える機会が多かったからだと考えられる。また、中学校卒業後の将来だけに目を向けるのではなく、「自分のよさ」や「自分とは」など自己と向き合い、振り返る場面が多く設定されていたことも関係している。次年度は、学活の時間に定期的にこのような場面を設定し、年間を通して自己の成長を振り返られるように系統的に実施していきたい。

評価指標13に関して、三者ともに肯定的な回答が前期を上回った。前期のアンケートを受け、「東中三大自慢」について、特活や生徒会、全校生徒で改めて考える機会を設けた。本当に「自慢」と言えるのか、そのように判断した理由は何かなど、学級や全校で考える時間を設定したことで、向き合うきっかけづくりはできたと思う。しかし、アンケートの数値は向上したが、生徒の実態も同様に向上しているのかという新たな疑問も生まれた。あいさつや歌声等も、学校内での判断だけではなく、地域や社会からの評価にこそ妥当性があると思う。そのため、我々教師は、社会的に求められているレベルや水準は、もっと高いものであるということに気付かせるような手立てを講じていかなければならない。

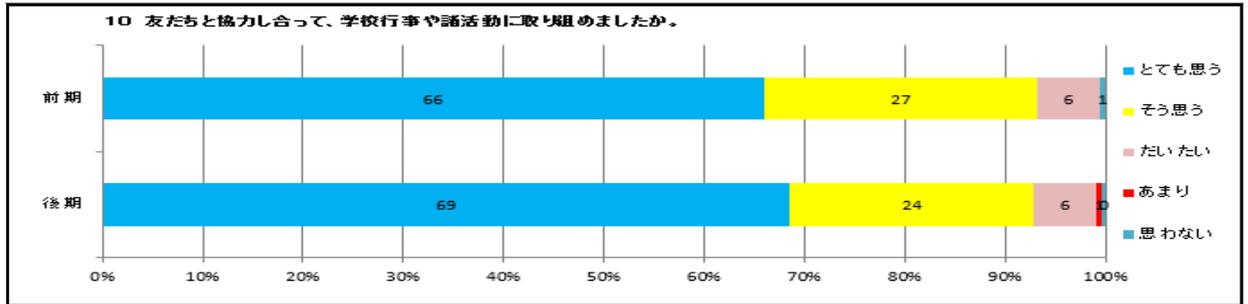
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
11 集団力を高める自主的・自律的活動	(15) 創意に満ちた学級・生徒会活動の充実	共感的協働性を発揮できる創意ある学級活動や生徒会活動の実践	4	4
12 自己理解の伸長	(16) 進路指導の充実	自分のよさや可能性を見だし未来を切り拓く資質・能力の伸長	4	4
13 ふるさとを支える気概	(17) 持続可能な地域づくりへの挑戦	「東中三大自慢」や「鳳凰ダンス」で地域に元気を届ける活動の展開	3	4

【評価指標11】 集団力を高める自主的・自律的活動

教師ア

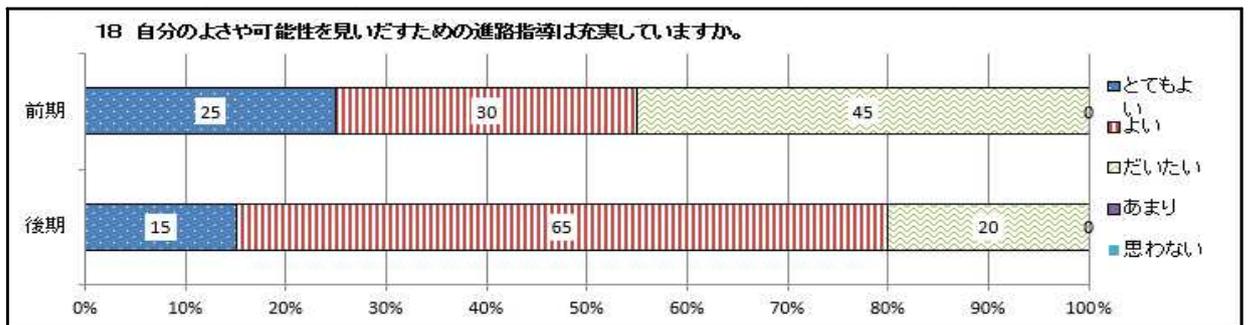


生徒ア

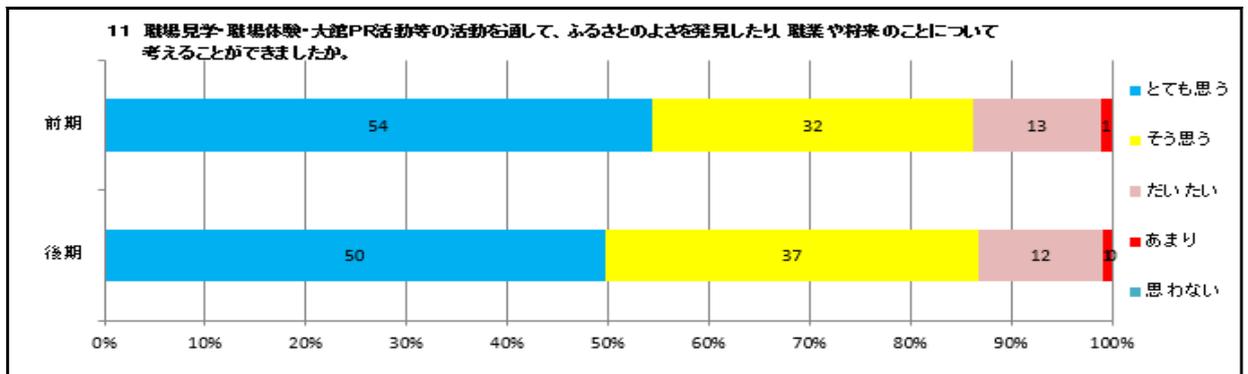


【評価指標12】 自己理解の慎重

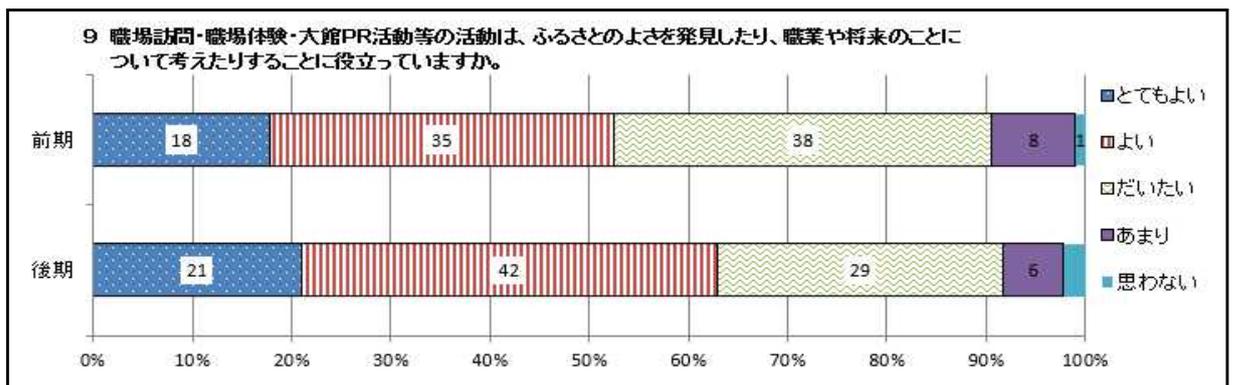
教師ア



生徒ア

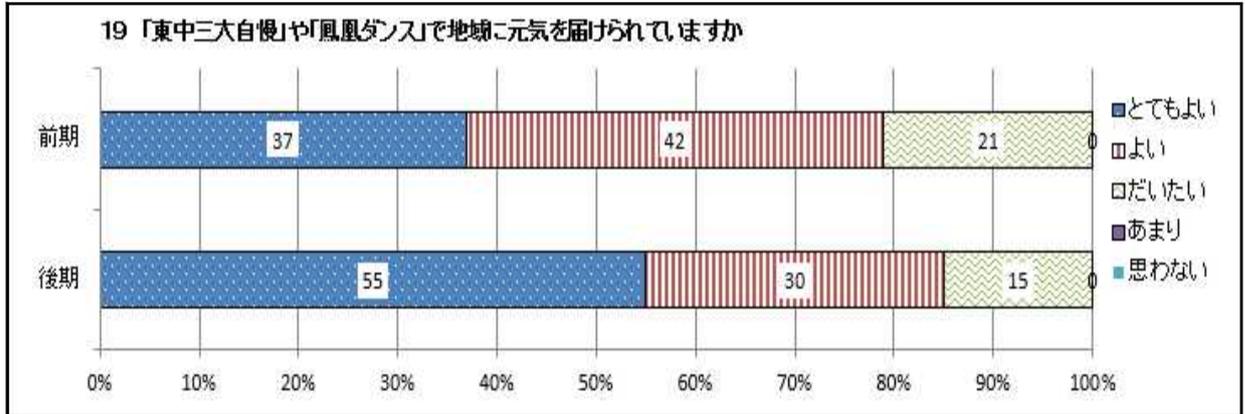


保護者ア

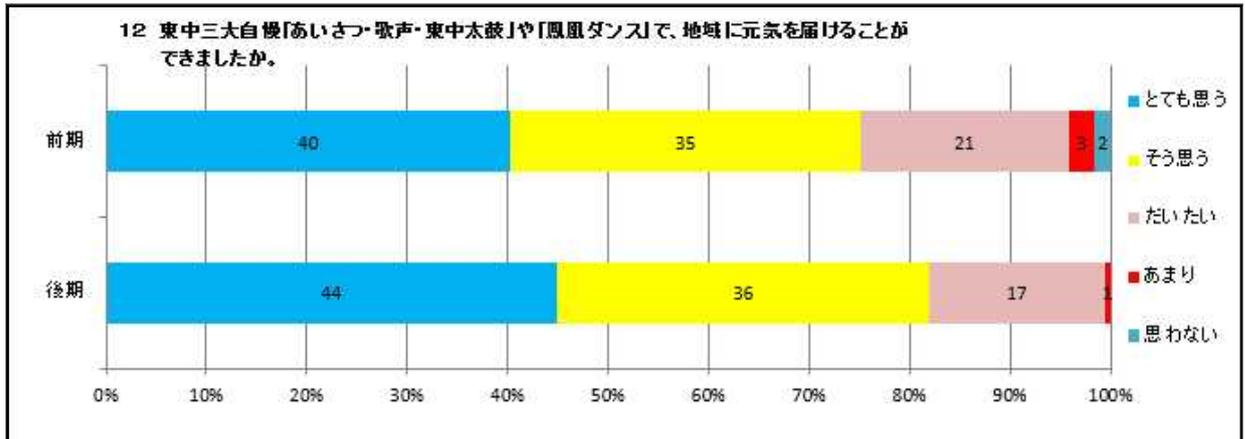


【評価指標13】ふるさとを支える気概

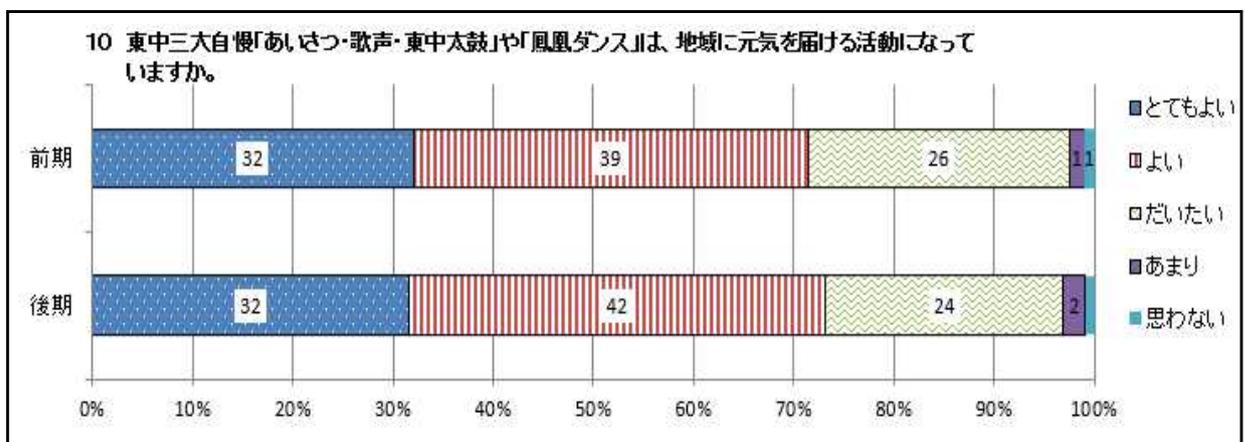
教師ア



生徒ア



保護者ア



自己評価 Aと外部 評価の評 価区分	きわめて良好	自己評価 Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して100%達成
	良好		4	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して80～99%以上達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60～79%以上達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して40～59%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して39%以下の達成